

果樹園における大雨・滞水被害への対策

令和 8 年 1 0 月 7 日
農林水産部担い手支援課

台風等の大雨の影響により、県内の果樹園では数日以上にわたり滞水が続いているところが見られます。果樹ではモモやイチジクで耐水性が低く、次いでナシ、カキ、ブドウの順に耐水性が高くなります。イチジクやナシでは滞水が6日程度続くと葉の萎凋や黄化等の症状が現れ、最終的に枯死する場合があります。冠水や滞水した果樹園は、一日でも早く排水を行うとともに、以下の対策をとり、次作に備えましょう。

1 滞水被害を受けた果樹園において排水後に実施する対策

- (1) 滞水した箇所で葉の萎れや落葉等が観察された樹は、根が傷んでいる可能性があるため、収穫後の礼肥の施用は避ける。葉色が薄いようであれば、窒素成分（尿素 0.2% など）を含む液肥の葉面散布等により樹勢回復を図る。基肥は通常どおり施用する。
- (2) 滞水による根傷みや、長雨による日照不足等により、貯蔵養分の蓄積が不足することが懸念される。貯蔵養分の浪費を防ぐため、来春までに剪定や花芽整理等の作業が遅れないようにする。特に早期落葉等の樹勢低下が確認された樹は、例年よりも開花までに花数を減らすことを検討する。次作の開花後も、樹勢に応じて着果量を調整する。

◎ ナシ園で注意すべきポイント

- ア 9月の長雨により園内のナシ黒星病菌の菌密度が例年よりも高くなっていると推定されることから、秋季防除と落葉処理を徹底する。特に、本作において黒星病の発生が多かった圃場は注意する。
- イ 貯蔵養分を温存するため、結果枝の更新は減らし、次作では古い結果枝を利用する割合を増やす（短果枝での着果を優先する）。また、樹勢改善のために予備枝を多めに配置する。
- ウ 果樹胴枯細菌病（ナシのさび色胴枯れ病）は多雨条件で感染・発病が助長され、排水不良園での発生が多い傾向がある。圃場土壌の通気性の改善に努め、次作も樹体をよく観察する。発病樹は根も含めて丁寧に抜根し、園外に持ち出し処分する。
- エ 長雨により常に土壌の湿度が高く維持されたことで、土壌病害の白紋羽病の発生が助長される懸念がある。白紋羽病の既発生圃場では、発生跡地の周辺や罹病樹周辺への化学合成農薬による予防や温水治療等の対策を実施する。

2 今後の大雨に備えて事前対策を徹底しましょう

- (1) 園内外の明渠・暗渠の排水路や排水口を点検し、土砂や落葉などの詰まりを取り除く。
- (2) 排水ポンプ（污水用）の使用が想定される園地では、機器の作動、吸水・吐出ホース、燃料または電源、設置場所及び排水先を事前に確認する。
- (3) 地下方向への排水改善を目的とした縦穴暗渠は、下記の適用条件を確認した上で、施工を検討する。

ア 地表または硬い土層（耕盤層）の上にたまる水を、その下の透水性のある層へ通すことを目的に実施する（図1）。

イ 施工する場所は、普段から降雨後に水がたまりやすい箇所（圃場内の低地等）の樹列の間（スピードスプレーヤの通り道で硬い土層がある場所）を優先する。

ウ 穴は、電動式オーガ、ホールディガー等で直径約10cm（それ以上でも可）、深さ50～60cmを目安に掘り、もみ殻もしくは堆肥を充填する（写真1、2）。

エ 列間中央に4～5m間隔を目安として穴を設け、降雨後の水の引き方を見て今後の増設を判断する。試しに穴を掘った際に、穴の下層も粘質土で水を通さない場合は、縦穴暗渠による排水改善効果は期待しにくい。また、地下水位が高い圃場では施工しない。

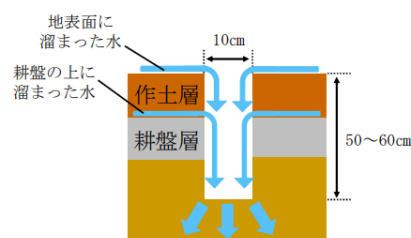


図1 縦穴暗渠の概念図



写真1 電動式オーガ

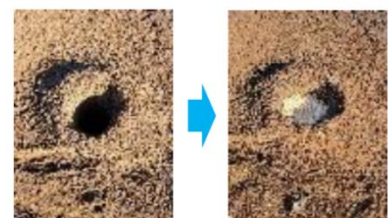


写真2 縦穴暗渠施工の様子

（図、写真は「主要露地野菜の台風対策技術」千葉県・千葉県農林水産技術会議（令和8年3月）より引用）

3 滞水してしまった場合に行う事後対策

- (1) 滞水している場合は、速やかな排水に努める。排水口の閉塞を解消し、園内の水を既存の排水路へ誘導する。自然流下しない場合は、放流先の安全を確認した上で、低い場所に集水した後、污水用の排水ポンプを用いて園外に排出する。
- (2) 地表水が引いても根域に水が残る場合があるため、排水後は葉の萎れ、落葉など樹勢の変化を観察する。これらの症状が見られる場合は、気相を増やすよう、土壌が乾いた後にロータリー耕等で表面を混和し、通気性を確保する。葉が巻いて回復しない場

合は、樹の過剰な乾燥を防ぐために、傷んだ枝を中心に剪定・除去し、蒸散を抑制する。

- (3) 園地に土壌が流入した場合は、樹勢の低下を防止するために流入・堆積した土砂はできるだけ早く除去する。園内全体の土砂を取り除くことが難しい場合は、樹冠下部だけでも取り除く。
- (4) 土壌が流され、根が露出している場合は、可能な限り早く客土を行い、根の乾燥を防ぐ。
- (5) 倒伏した樹は、無理のない範囲で徐々に起こし、土寄せし支柱を立てる。